自閉性スペクトラム児の「できる」をキーワードとした他立的自律の促進

－横断歩道の横断スキルについて－

The Promotion of Supported Autonomy the Keyword of Which Is the "Ability" of Children with Autistic Spectrum Disorders:
the Formation of Skill in Crossing a Crosswalk

○山口真名美　　谷　晋二
○Manami YAMAGUCHI　　Shinji TANI
(立命館大学　応用人間科学研究科)
(Ritsumeikan University Graduate School of Science for Human Services)

Key Word:自閉性スペクトラム,他立的自律，横断歩道の横断

問題：応用行動分析は自閉性スペクトラム児に対する効果的な療育支援方法として幅広く活用されているが，多くの研究の到達点は対象者の「自立」に着目することが目的とされている研究がほとんどである。しかし「自立」のみの方向ではなく他者もその援助作業に介在させた「他立的自律」（望月，2010）の成立のためには，例えば通常学級に在籍する障がいのある子どもにとって，クラスの子どもたちが上手な受け手になるようなクラス運営について考え，周囲の環境を整える必要がある（谷，2012 ）。

目的：本研究では知的障害のある自閉性スペクトラム児が横断歩道を横断する上で不十分なスキルであっても，機能的に成立するよう他立的自律を促進する。

方法：1)対象児：特別支援学級に在籍する重度の知的障がいを合わせもつ自閉性スペクトラム男児７歳であった。CA7:4 時の KIDS の総合発達年齢は 3:0 であった。対象児はひらがなの読み書きや二語文程度の言語表出，色の弁別が可能であった。2)期間:201X 年Ｙ月～Ｙ＋４月（月例訓練は約８回実施）3)標的行動：絵カード選択や言語表出，動作での TR. において，適切な反応をすることとした。4)刺激：歩行者用信号の赤信号と青信号の絵カード(90cm × 13cm)を各２枚，横断歩道の模型(90cm × 150cm)，スタートライン（幅 90cm)。5)手続き:1ブロック６試行で TR を行った。①事前TR.:絵カードそれぞれの歩行者用信号の ID マッチング，絵カードそれぞれの歩行者用信号の提示に対して「みどりあるく」「あかとまれ」の言語表出を求めた。②動作 TR1(ランダム提示): 歩行者用の赤信号絵カードが提示されたら「止まる」という動作，歩行者用青信号絵カードが提示されたら「歩く」という動作の獲得とした。動作 TR2（赤信号の絵カードから提示）③歩行者用と車用の絵カードの弁別テスト④場面般化プローブ：実際の横断歩道で横断スキルが獲得されたか確認した。

結果と考察：Fig1の通り対象児は場面般化プローブにおいて信号が切り替わっても横断することはできなかったが，他立的自律の場面では同行者の「信号みて」の声かけがあれば，横断が可能であった。このことから他の同行者でも活用が可能と推察される。

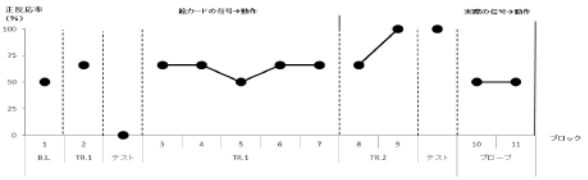

Fig.1 横断歩道の横断スキルの正反応率

引用文献：

望月昭（2010）. 対人援助学の可能性「助ける科学」の創造と展開　望月昭・サトウタツヤ・中村正・武藤崇（編）福村出版　pp. 18-20
谷晋二（2012 ）. はじめはみんな話せない　行動分析学と障がい児の言語指導　金剛出版　pp. 190-192